

ふおくぶるの開架書架

月号

発行者…

FOBUL

(別府大学図書館友の会)

司書課程を受けるならFOBULへ！

FOBULとは「別府大学図書館友の会(Friend of Beppu University Library)」の略です。高校でいうところの図書委員会をグレードアップさせたようなサークルです。

主に別府大学で週に一度のボランティア活動。あとは本誌のような新聞の作成。その他にも読書会、ビブリオバトルの開催など、本に関する活動など盛り沢山です。男女はもちろん、学部学科学年も問わず部員募集中です！興味がありましたら、図書館へ是非足を運んでみて下さい！

FOBLE のここがスゴイ！！

- ☆司書課程の先生や、図書館の職員さんと繋がりを持てる！
- ☆司書課程を履修する先輩が多いから、授業のことはお任せあれ！
- ☆図書館にまつわることは他の学生より沢山勉強できる！

FOBLE の部会は、
図書館三階ワロンルーム
で
毎週月曜日の 12 時 15 分
から行っています！

ベビキーの図書館豆知識



皆さんは青森県のつがる市立図書館はご存知でしょうか。なんとこの図書館、あのイオンモールの中にあるんです。市役所や公民館、地方の複合施設などの一部としての図書館はありましたが、商業施設の中に会館しているなんて図書館のあり方は私たちが思っているより大きく、進化しているのかも。

これを機にあなたの町の図書館がどんな風に位置しているか考えてみるのも面白いかもですね。



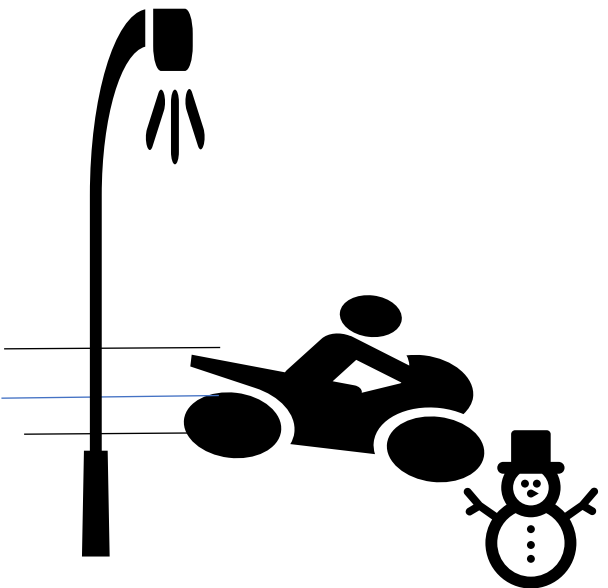
♪ オススメ音楽・映像作品

私が今回紹介するのは映像作品ではなく音楽です。そのチョイスなんですが……（やはり古いけれど）尾崎豊の『15の夜』です。十代のカリスマと称される尾崎豊の言わずと知れたデビューシングル。「盗んだバイクで走り出す」というフレーズだけなら耳にしたことがある人も少なくないはずです。

歌詞の内容は尾崎自身や当時の友人の身にあつた経験そのものが書き出されており、大人に対する反骨心や自由への憧れ。これらがストレートな歌詞とロックなメロディに乗せられています。

尾崎の歌は夢や愛、生きる意味や自由など抽象的で哲学的ですが、多感な年頃ですと誰もが一度は直面しうる葛藤や胸懷がそこにはあつて、正にティーンエイジャーのための歌と言っても過言ではありませぬ。

学生とはいえ、大人になりつつある我々は今この曲を聴くと何を感じ、何を思うのでしょうか。どう感じるかはあなた次第。是非一度お聴きください。

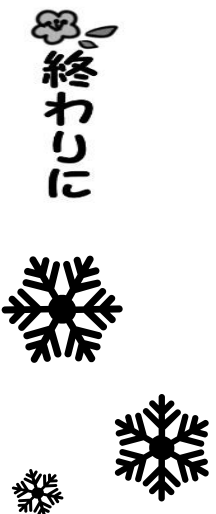


教えて！面白い本

今回私が紹介するのは、瀬尾まいこさんの短編集『優しい音楽』です。

駅でいきなり声をかけられたことをきっかけで恋人となった二人の心温まるラブストーリー『優しい音楽』、不倫相手の子供と二人きりで一日生活することになった『タイムラグ』、心変わりの早い彼女との、少し不思議な同棲生活を描いた『がらくた効果』の三話が収録されています。

人がそれぞれ持つ過去や問題を受け止めながら、希望や活路を見出す人々の姿は、正に瀬尾まいこさんの魅力が詰まった一冊です。ほっこりした読後感をあなたも是非



すっかり朝晩が冷たくなってきました。卒論が終わらない僕に対する教授の目も冷たくなってきました。そんな季節です。

さて、高齢化問題を抱えていた限界集落の一步手前を歩んでいた我らFOBULにやっと新たな命が吹き込んできました。それも、一気に二人も。「今日は死ぬにはいい日だ」なんて直訳できることわざが英語にはあるらしいのですが、僕の思いはそんな気持ちです。卒論もFOBULも。